

## 1) 会員管理

## R4年度会員数(2023年3月31日現在)

会員種別	H30年度末 (H31.3.31)	R1年度末 (R2.3.31)	R2年度末 (R3.3.31)	R3年度末 (R4.3.31)	R4年度末 (R5.3.31)
個人会員	634	620	587	584	527
学生会員	247	195	130	96	111
海外会員 *OECD	3	3	2	2	3
海外会員それ 以外	1	1	1	4	4
法人会員	6	5	5	5	5
名誉会員	12	12	11	11	11
計	903	836	736	702	661

\* 上記集計はメール・郵便物不達者を除いた数。個人会員資格喪失者(過年度未納2年)を除いた数。

\* R3年度末の個人会員には、非会員6名(会費請求しない)を除外。

\* 学生会員は、資格継続確認に未回答数を含む。

## 法人会員

日本製鉄(株) / 日本ガイシ(株) / 東レ(株) /  
本田技研工業(株) / JFEテクノリサーチ(株) /

## 2) 総会・定例理事会・臨時理事会・書面審議

### 1. 総会

2022年 6月 10日(金) 13:00-13:55 Zoomオンライン

### 2. 定例理事会

2022年 6月 10日(金) 15:00-16:30 Zoomオンライン (第1回)

2022年12月 5日 (月) 15 : 00～16 : 30ハイブリッド会議 (第2回)

現地会場：産業貿易センタービル2階 小展示室

### 3. 臨時理事会

2023年 3月31日 (金) 14 : 00～16 : 00 Zoomオンライン

2023年 6月10日 (土) 13 : 00～14 : 00 対面とオンライン

## 3) 以下、各委員会活動報告

**編集委員会**

委員長 渡邊友亮 副委員長 内田儀一郎

**MRS-J Bulletinの公開・MRMチュートリアル動画配信について**

2023. 2.24 「第32回年次大会」チュートリアルの動画を、会員ページにて公開

MRS-J Bulletinを会員ページにて公開予定

- 第32回MRS-J年次大会のチュートリアルとして、12月4日にTU1：高井先生(東),TU2：大場先生(東工大),TU3：田村先生(物材機構))の3講演をZOOM webinarで開催した。
- 3名の講師の先生方に動画公開同意書にサイン頂いた。3名の講師の先生方へ謝金（講義で2万円＋会員サービス動画公開で2万円）を予定。
- イントラックスシステムズ株式会社（ご担当者：伊東様）に動画編集及び動画配信設定を発注し、ご納品戴いた。一式55,000円(税込み)。
- 2023年2月28日、事務局より日本MRS会員に動画公開の案内メールを送信し、会員に動画を公開した（動画配信の一連の作業を完了）。

## 日本MRSニュース編集委員会

## ニュース編集委員長 岩田展幸

[2021年 Vol. 34-No.2 July](#)

- 目次  
 やあ こんにちは  
 新型コロナウイルスのパンデミックと抗ウイルス薬  
 馬場 昌範
- 研究所紹介  
 佐賀大学 肥前セラミック研究センター  
 センター長・教授 矢田 光徳
- 研究トピックス  
 衝撃成形レプリカ標本のハンズオン触察評価  
 沖縄工業高等専門学校 生物資源工学科 嶽本 あゆみ
- Report  
 The 6th E-MRS & MRS-J Bilateral Symposium 開催報告

[2021年 Vol. 33-No.4 Dec.](#)

- 目次  
 やあ こんにちは  
 高圧合成法を用いた新物質探索研究  
 物質・材料研究機構グループリーダー／北海道大学客員教授  
 山浦一成
- 研究所紹介  
 株式会社 本田技術研究所  
 先進技術研究所 材料・プロセス領域 チーフエンジニア  
 池田 知廣
- 研究トピックス  
 物理的な作用で発現する抗菌材料の開発  
 関西大学システム理工学部 機械工学科  
 伊藤 健
- Report  
 IUMRS-ICYRAM2022 開催報告  
 実行委員長 長島一樹

[2021年 Vol. 34-No.3 Sep.](#)

- 第32回日本MRS年次大会  
 日時・場所：2022年12月5日（月）～12月7日（水）  
 産業貿易センター・波止場会館  
 主催：日本MRS

[2022年 Vol. 34-No.1 Mar.](#)

- 目次  
 やあ こんにちは  
 東工大との統合および医療工学の更なる発展に向けて  
 東京医科歯科大学 生体材料工学研究所 教授(医療工学領域長)/  
 センサ&IoTコンソーシアム会長 三林浩二(みつばやし こうじ)
- 第32回日本MRS年次大会報告  
 組織委員長 手嶋 勝弥(信州大学)  
 実行委員長 吉矢 真人(大阪大学)
- ご案内  
 MRM2023/IUMRS-ICA2023  
 第33回日本MRS年次大会  
 協賛・公募  
 To the Overseas Member of MRS-J  
 編集後記

## 広報・情報委員会

委員長 青木学聡

「日本MRSにおける共催・協賛・後援依頼の取り扱いに関する考え方」について

- 広報・情報委員会では、「日本MRSにおける共催・協賛・後援依頼の取り扱いに関する考え方」を取りまとめた。これは、他学術団体等から日本MRSに対し、協力や名義貸しの依頼があった場合に、日本MRSより提示する条件である。

- 用語の定義(共催、協賛、後援)
- それぞれの協力体制における
- 日本MRSの関与
- 日本MRSの義務
- 日本MRSに対する特典
- 承認プロセス

の妥当性について審議いただきたい。

## • 参考資料

- 「日本MRSにおける共催・協賛・後援依頼の取り扱いに関する考え方」:  
規程にするか?、事務局での運営ルールとするか?
- 「学術的会合等における日本MRSとの共催、協賛、後援依頼について」:  
Webページ内容案

	共催	協賛(または協力)	後援
日本MRSの関与	人的・金銭的負担を伴う内部的な支援	人的・金銭的負担を伴わない外部的な支援	人的・金銭的負担を伴わない外部的な支援
日本MRSの義務	企画・運営への参加・支援 Webページでの広報 会員向けMLでの広報	Webページでの広報	Webページでの広報
日本MRSに対する特典	参加費、論文投稿費等の優遇	参加費、論文投稿費等の優遇	特になし
クレジット表記	必要	必要	必要
英文表記例	co-operated by MRS-J co-sponsored by MRS-J	supported by MRS-J	with endorsement of MRS-J
可否判断(内規)	日本MRS理事会での審議を経て会長が判断	広報・情報委員会で審議し、会長に報告	広報・情報委員会で審議し、会長に報告

Webページにおけるイベント・公募情報の告知

実績についてはHP (<https://www.mrs-j.org/>) をご参照ください。

## そのほか報告事項

- MRS-J Webページの修正
  - 「概要」における事業内容の整理
  - 「研究会」の記述を整理
  - Webページのスマホ対応
    - 年次大会プログラムなどを優先し、段階的に実施
- TMRSJ バックナンバー公開
  - 2011年以降の分はJSTAGEへ
  - それ以前のはMRS-J Webページで公開
    - 一部欠番がある。情報提供を呼び掛ける予定
  - 以上の取り組みより、「冊子販売」を終了へ
    - 「複写依頼」は年次大会予稿集が未公開のため、まだしばらく残る
- 年次大会及びIUMRS関連学会予稿集の公開検討
  - 著作権の問題
    - 近年の発表は「著作権譲渡」の確認を行っている
    - 古い予稿集については処理があいまい→「見切り発車」してよいか専門家に問い合わせ中
  - 公開時に適用するライセンスの問題。「Creative-Commons」に沿ったものとして処理を簡単にしたい
  - MRS-Jとして、「公開時期」を定める必要がある。例えば・・・
    - (年次大会に参加しなかった)MRS-J会員に対しては「半年後」
    - 一般公開は「2年後」(cf. 情報処理学会電子図書館 [https://www.ipsj.or.jp/e-library/digital\\_library.html](https://www.ipsj.or.jp/e-library/digital_library.html))  
といったルール

## 表彰委員会

委員長 佐藤貴哉

### 日本 MRS 表彰委員会

1. 日本 MRS 表彰委員会(以下 表彰委員会とする。) 表彰委員会委員長並びに副委員長は MRS-J 理事会から推薦された理事が務める。
2. 表彰委員会は、日本MRSが主催する研究発表会(年次大会、国際会議等)の奨励賞選考委員会の正副委員長を推薦し、奨励賞の授与に関する規約と選考結果の確認と承認を実施する。また、研究発表会の奨励賞受賞者の理事会での承認(事後承諾)とHPなどによる公表の指示を行う。
3. 表彰委員会は、日本MRS年次大会の奨励賞の授与に関する規約を制定し、企画立案し実施する。
4. 表彰委員会委員長の任期は、2年として次年度は表彰委員会副委員長が表彰委員会委員長を務めることを原則とする。

## 2022年度以降(暫定)

日本MRS表彰委員会 (暫定:現状維持を想定)

表彰委員長(Chair):佐藤, 副委員長(Sun-Chair):渡邊, 委員:齋藤, 中野, 手嶋

顧問:高井まどか@東大

各イベントの選考委員長の推薦, 規定(要綱)の評価・確認+選考結果の妥当性の確認

→最終決定(承認)は表彰委員会とし, 理事会への報告事項とする。

ただし, 選考委員長の決定や大幅な規定(要綱)改訂等, 審議の必要性がある場合は理事会審議とする。

イベント1: **第32回年次大会**

選考委員長:**X1**, 副委員長:**X2**

規定の決定+選考+選考結果の表彰委員会への報告

イベント2: **MRM2022(開催される場合)**

選考委員長:**Y1**, 副委員長:**Y2**

規定の決定+選考+選考結果の表彰委員会への報告

イベント3: **ICYRAM2022(?)等**

選考委員長:**Z1**, 副委員長:**Z2**

規定の決定+選考+選考結果の表彰委員会への報告

表彰状は, 会長名(もしくは会長名+表彰委員会委員長名)とする。

IUMRSのイベントでは, IUMRS会長が入っても良いが, その都度判断(イベント規定にもよる)する。

## 第32回日本MRS年次大会奨励賞受賞者一覧

## 受賞者数25名

sympo	prg_no	Title	Presenter	Affiliation
A	受賞者無し			
B	B-P5-007	格子欠陥の原子構造と特性の高精度予測に向けたニューラルネットワーク記述子・原子間ポテンシャルの構築	横井 達矢	名古屋大学
		Neural-network descriptor and interatomic potential for accurately predicting atomic structure and properties of lattice defects	Tatsuya YOKOI	Nagoya University
B	B-P5-011	計算と機械学習によるプロトン伝導性酸化物の探索と性質の理解	藤井 進	大阪大学大学院工学研究科/ファインセラミックスセンターナノ構造研究所
		Interpreting intrinsic nature of proton-conducting oxides for solid oxide fuel cells using high-throughput computation and machine learning	Susumu FUJII	Graduate School of Engineering, Osaka University/Nanostructures Research Laboratory, Japan Fine Ceramics Center
		計算・実験を通じたNASICON型構造における負熱膨張性の機構解析	望月 泰英	東京工業大学
B	B-O6-003	Mechanism of the negative thermal expansion in NASICON structures from calculations and experiments	Yasuhide MOCHIZUKI	Tokyo Institute of Technology
		アモルファスTiO <sub>2</sub> 表面の光触媒活性に関する第一原理計算	加藤 資康	名古屋工業大学
C	C-P5-022	First-principles study of photocatalytic activity of amorphous TiO <sub>2</sub> surface	Motoyasu KATO	Nagoya Institute of Technology
		粗水素を直接活用する基盤技術の開発：分子水素貯蔵の水素精製への応用を目指して	星本 陽一	大阪大学大学院工学研究科
C	C-O5-007	Main-Group Catalysis for H <sub>2</sub> Purification Based on Liquid Organic Hydrogen Carriers	Yoichi HOSHIMOTO	Faculty of Engineering, Osaka University
		量子カゴメ反強磁性体InCu <sub>3</sub> (OH)6Cl <sub>3</sub> の磁性	加藤 萌結	北海道大学大学院理学院
D	D-O5-010	Magnetic properties of quantum kagome antiferromagnet InCu <sub>3</sub> (OH)6Cl <sub>3</sub>	Moyu KATO	Faculty of Science, Hokkaido Univ.
		ヒドロキノン水溶液中プラズマによって形成したカーボン層を有する六方晶窒化ホウ素の表面電荷	井上 健一	東京大学/産業技術総合研究所
E	E-O5-002	Surface charges of hexagonal boron nitride with carbon layers formed by plasma in hydroquinone aqueous solution	Kenichi INOUE	The University of Tokyo/National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST)
F	F-O6-016	水性染料の超高度分離を目的とした親水性・疎水性ナノドメインを有する共有結合性有機構造体膜のin-situ作製	馬淵 春菜	東京理科大学大学院理学研究科
F	F-O6-016	In-situ Preparation of Hydrophilic and Hydrophobic Nanodomains in Covalent Organic Framework Membranes for Ultrahigh Separation of Dyes from Aqueous Solution	Haruna MABUCHI	Graduate School of Science, Tokyo University of Science
G	受賞者無し			
H	H-P5-021	バイオミネラリゼーションを模倣した手法と焼成処理の併用による制御された結晶配向性を有するヒドロキシアパタイト薄膜の形成	黒川 成貴	東京大学大学院工学系研究科
		Hydroxyapatite Thin Films with Well-ordered Crystal Orientation Fabricated by the Combination of Biomimetalization-inspired Approach and Subsequent Thermal Process	Naruki KUROKAWA	School of Engineering, The University of Tokyo
H	H-P5-011	リチウムイオン電池電解質への応用に向けたフッ素化メソゲンに有するイオン伝導性液晶の開発	竹川 慎悟	東京大学大学院工学系研究科
		Development of Ion-Conductive Liquid Crystals Having Fluorinated Mesogens towards Electrolytes for Lithium-Ion Batteries	Shingo TAKEGAWA	School of Engineering, The University of Tokyo
I	I-P6-014	温度によって時間制御可能な自己修復ゲルの開発	斉藤 陸人	宇都宮大学大学院地域創生科学研究科
		Development of time-controllable self-healing gel depending on temperature	R SAITO	Graduate School of Regional Development and Creativity, Utsunomiya University
J	J-P6-001	急性肝障害のためのオルニチン型ナノメディスンの開発	丁 媛媛	筑波大 数理物質
		Development of Ornithine-Based Nanomedicine for the Management of Acute Liver Injury	Yuan yuan DING	Department of Materials Science, Graduate School of Pure and Applied Sciences, University of Tsukuba

## 第32回日本MRS年次大会奨励賞受賞者一覧(つづき)

K	K-P6-009	ホルミウム二核錯体を基盤とするカラムナー液晶の作製と磁気特性	前田 芳紀	千葉大院融合理工
		Fabrication and magnetic properties of columnar liquid crystals based on holmium dinuclear complexes	Yoshiki MAEDA	Graduate School of Science and Engineering, Chiba University
	K-P6-004	リシンを側鎖結合したポリマーによる銅とのコンプレックス形成	高木 健吾	兵庫県立大学大学院工学研究科
		Complex formation of pendant lysine groups-bearing polymers with copper	Kengo TAKAGI	Graduate school of Engineering, University of Hyogo
	K-P6-005	高分子プレートを用いたリキッドマーブルの大型化	林 将生	大阪工業大学大学院工学研究科
		How high liquid marble can be fabricated?	Masaki HAYASHI	Graduate School of Engineering, Osaka Institute of Technology
	K-P6-011	糖鎖結合性/双性イオンブロック共重合体の水性環境における会合挙動	前田 沙弥	大分大院工
K-O7-007	Aggregation Behavior of Block Copolymers Integrating Sugar Binding Motif and Zwitterionic Chains in Aquatic Environments	Saya MAEDA	Graduate School of Engineering, Oita University	
	制御ラジカル重合によって調製されたN-フェニルアクリルアミドオリゴマーのキラリティーに依存した自己組織化	岩本 日菜子	九州大学大学院工学部	
L	L-O7-014	水柱噴流による接触する大気圧プラズマ生成	藤田 立樹	東北大学工学部
		Atmospheric Pressure Plasma Generation in Contact with Water Column Jet Flow	Ritsuki FUJITA	Graduate School of Engineering, Tohoku University
M	M-O5-001	防水・耐乾燥カソードを用いた経皮通電パッチの開発	奥山 浩平	東北大学大学院
		Water-proof Anti-drying Enzymatic O2 Cathode for Bioelectric Skin Patch	Kohei OKUYAMA	Tohoku University
N	N-O5-003	印刷型乳酸バイオセンサとPDMS流路を用いた汗中の乳酸のモニタリング	大曾根 優朗	東京理科大学
		Lactate monitoring of sweat using the screen-printed lactate biosensor and PDMS channels	Yuro OZONE	Tokyo University of Science
O	O-O5-010	疎水性イオン液体で修飾したPt/C触媒の電気化学挙動	岡田 拓也	奈良工業高等専門学校
		Electrochemical behavior of hydrophobic ionic liquids layer modified Pt/C catalyst	Takuya OKADA	National Institute of Technology, Nara College
	O-P6-015	陽極酸化ポラスアルミナ-濃厚ポリマーブラシ複合材料の摩擦耐久性評価	小田 渚	鶴岡工業高等専門学校
P	P-O6-007	新規異方性材料としてのナノファイバー分散体の創製とユニークな物性	横瀬 颯人	東海大学大学院 工学研究科
		Fabrication and Unique Characterization of Nanofiber Dispersion as Novel Anisotropic Materials	Hayato YOKOSE	Graduate School of Engineering, Tokai university
	P-O6-002	Noncovalent functionalization of single-walled carbon nanotubes using aqueous-dispersed platinum nanoparticles for hydrogen production by water electrolysis	Osama Ramadan METAWEA	RIKEN Center for Emergent Matter Science/Graduate School of Science and Engineering, Saitama University

その他、ダイジェストの提出・MRS-J Bulletinの公開につき以下が確定した。

- ・ダイジェストの提出は必須で、第31回同様、11月初旬を締切とする。
- ・ただし、受賞者が希望する場合は、MRS-J Bulletinへの掲載を最大1年間延期できるものとする。
- ・MRS-J Bulletinの公開は、年度内に実施する。

## 7. 高専機構-MRS-J 連携促進委員会 2022年度

委員長	佐藤貴哉	国立高等専門学校機構	教授／研究統括参事
委員	松本佳久	大分工業高等専門学校	教授／校長補佐
委員	高田英二	富山高等専門学校	教授／副校長
委員	西野精一	阿南工業高等専門学校 創造技術工学科	教授
委員	兼松秀行	鈴鹿工業高等専門学校	教授
委員	川越大輔	小山工業高等専門学校	講師

2022年 第32回日本MRS年次大会

○：社会実装材料研究シンポジウムを企画した。

発表ペーパー数＝22件

奨励賞受賞数＝2件

2022年 予算 16万円 執行額 0円

テーマ: Afterコロナウイルス時代へ向けたマテリアルズイノベーションの展開:  
データ科学と実験・理論・計算の相補的連携

主催: 日本MRS

会期: 2022年12月5日(月)～7日(水)

会場: リアル開催(産業貿易センター・波止場会館)

シンポジウム数: 16件

発表件数: 611件(口頭: 350件、ポスター: 261件)

参加者数: 781名(内、海外から11名)

企業展示: 4社、広告掲載: 3社(シンポ: 3社)、シンポ協賛: 10社(or団体)、シンポ後援: 4団体

参考) 2021年度

シンポジウム数: 16

発表件数: 524件(口頭: 320件、ポスター: 204件) 参加者数: 625名(内、海外からXX名)

企業展示: 0社、広告掲載: 1社(シンポ: 1社)、シンポ協賛: 0社

参考) 2020年度

シンポジウム数: 15(内、国際シンポ4、他、オンライン開催によるキャンセル1)

発表件数: 576件(口頭: 381件、ポスター: 195件) 参加者数: 664名(内、海外から38名)

企業展示: 0社、広告掲載: 2社(シンポ: 2社)、シンポ協賛: 1社

2021国籍

1 France

13 India

616 Japan

1 Serbia

2 Thailand

1 Vietnam

特別講演

12月5日 「金属人工格子ルネサンス」高梨 弘毅@日本原子力研究開発機構

12月6日 「微細プラスチックと海洋汚染問題」日向 博文@愛媛大学

# IUMRS-ICYRAM2022

**The 5th International Union of Material Research Societies  
International Conference of Young Researchers on Advanced Materials**

**August 3-6, 2022,**

**Centennial Hall, Kyushu University**

**Onsite & Online Hybrid**



**MRS-J**  
The Materials Research Society of Japan



**11 Symposia/3 Plenary**

**ICYRAM2022 Award**

**Young Researcher Award / Student Presentation Award  
Travel Award**

- ・ICYRAM2022を  
九大医学部百年記念講堂に  
て行った。
- ・11シンポジウム
- ・3つのプレナリー
- ・3つのaward

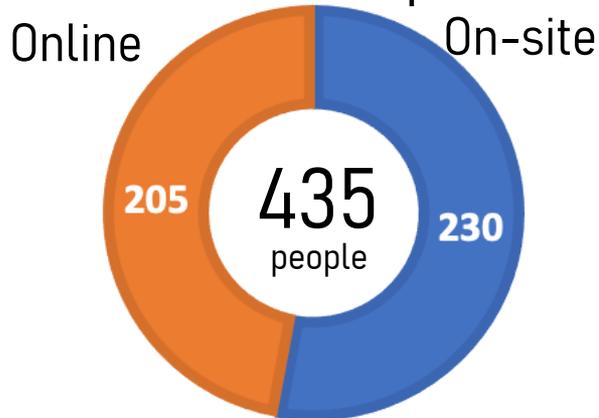
ICYRAM2022 参加者：435人(内、海外から99人)

現地参加者：230人(内、海外から30人)

講演総数：376件

内訳：プレナリー：3件, オーラル：273件, ポスター：100件

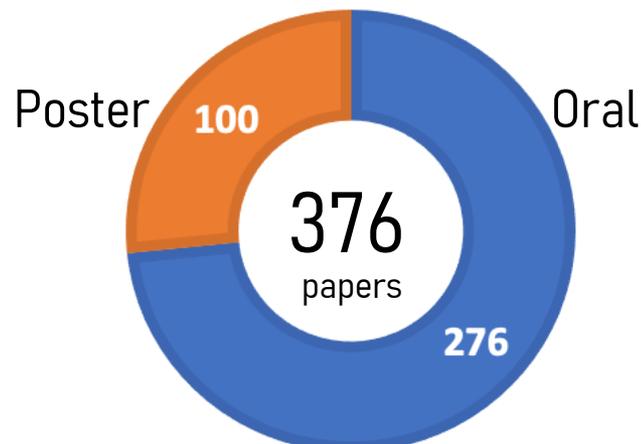
Total Participants



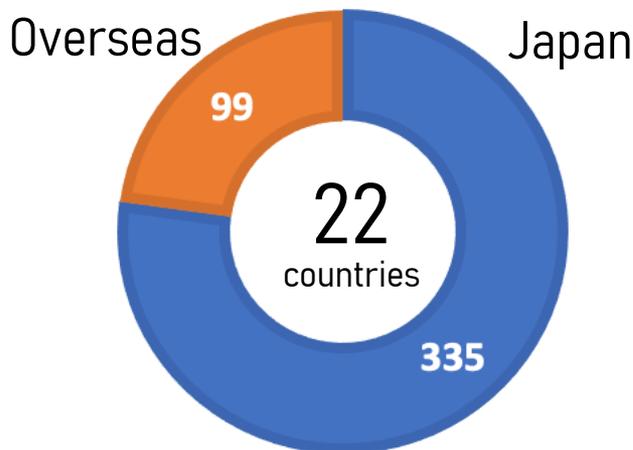
参加者国別

1	Japan	336
2	United State	13
3	Canada	1
4	United Kingdom	14
5	Russia	2
6	France	6
7	Germany	2
8	Italy	2
9	Norway	1
10	Slovenia	1
11	Swizerland	1
12	Israel	1
13	Korea	13
14	Indonesia	1
15	India	3
16	Taiwan	8
17	Malaysia	1
18	China	17
19	Hong Kong	2
20	Singapore	1
21	Thailand	5
22	Australia	4

Total Presentations



Country/Region



- ・コロナ禍でハイブリッド開催
- ・半数以上のが現地参加を選択  
参加者にとっても、久しぶりの現地での会議の場となった。
- ・多くのシンポで、目標講演者数を達成
- ・シンポジウムオーガナイザーが参加者を募りやすい環境を整備
- ・会議中、OnlineとOnsiteの参加者の交流の場としてSlackを活用

## 会計について

## ①収入合計

12,308,557円

内 参加登録収入 9,547,283円(海外の振り込み手数料等で端数あり)

内 協賛金収入 530,000円

内 財団補助 2,190,000円(福岡コンベンションビューローの70万円がまだ振込確認できてないので未記入(報告書は提出済))

## ②支出合計

8,366,934円(予算計上額 9,560,000円)←予算計上時よりも100万以上安く抑えられた

## ①－②

4,017,546円 黒字 ←(福岡コンベンションビューローの補助金を足すと4,717,934円の黒字(約472万円)。)

- ・参加者を集めることができた
  - ・HPを自前で準備、ハイブリッドシステムを自前で構築、九大内設備の利用等、なるべく業者に頼まず、支出を抑えることができた。
  - ・財団、協賛金を集めることができた。
  - ・MRS-Jから73万円の補助がいただけた。
  - ・組織委員がそれぞれの役割を責任もって対応していただけた。
- が要因で黒字となった。